

三穂田町産廃処分場反対運動



全国ゴミ井連のシンポジウムに五〇〇人 (4月23日)

産廃処分場の建設が予定され、反対運動が起きている三穂田町で、全国のゴミ問題を扱う弁護士連合会がシンポジウムを開き、各地の建設中止を勝ち取った住民の闘いを報告し激励しました。



4月18日 共産党三穂田支部後援会
五〇数名の参加者が郡山東部二
ユータウン東に広がる「橋原郷」と西田町の「内出の森」を見物



映画「ホテル・ルワンダ」の上
映会場で、ルワンダ内戦の体験
者マリールイズさんとともに
(4月7日 福島フォーラム)



中労委国労昇進差別
事件の和解報告集会
(4月14日)

中国帰国者への医療・介護通訳派遣事業が実現



昨年十二月県議会で神山県議が質問した中国帰国者への自立支援通訳派遣事業が、今年度から本格的にスタートしました。
今年一月に一人を派遣者に委嘱、四月から郡山市と福島市に各三人、須賀川市と三春町に各四人、会津松本市と相馬市に各一人の合計十三人で

福島第一原発 津波時の取水問題と制御棒破損を調査

吉井英勝衆議院とともに、1-6号機の取水口の現場を視察。最大3.6mを想定しているが、4m以上の引き波に「対応できないことを指摘。



写真は「のち」で制御棒が破損し、ステンレス破片がめくれ落ちたまま入っている使用済燃料プールをみる調査団。(4月17日)

前進黨創立 75周年記念 庶民派「佐倉義民伝」歌舞伎

郡山公演が決まりました。破格値で一流の舞台をご堪能下さい。舞踊「近江のお兼」「口上」も同時上演。
6月11日(日)午後2時半
郡山市民文化センター中ホール
お問合せ: 024-932-6958 樽沼



入場料 五千円
河原崎国太郎 嵐 圭史

いのちの大切さを伝える 軍隊を持たない国 もりの案内人、コスタリカへ

神山悦子がおじゃまします。

今回は



緑ヶ丘在住 齋藤鈴子さん

「もりの案内人」の
ボランティア
私は森林の心を歩くのが好きです。特にに不安や悩みがある時は、森林の香りに包まれただけで心が安らぎます。大きく深呼吸して精神を生き返らせます。

そんな私が、たまたま「もりの案内人」の受講生募集の広報をみつけた時は「森が私を呼んでいるみたい」と思いました。正直迷いもありましたが、当時、山歩きも指導いただいた奥平境アズバイザの小さな笠井安氏から、自分の一生ののだからやりたいことをやってみたらいいと一言で決心し、挑戦しました。女性はまだまだ少なく二割ぐらいでした。

「もりの案内人」は、森林の中を一緒に歩き、自然にあれあう手伝いをします。自然観察を通して様々な動植物の「いのちのつながり」を発見し、

「いのちの大切さ」のメッセージを受け取り、「生きる力」として行動していきます。無事認定証を頂き、ぜひ森林の中を案内したいと思つたのは、森がいのちと高揚者でした。森林から連なり所を感じる人々と自然の恵みを共感し、元気をいただきましたかと思つた。こんな不思議な力が森にはあるように思っています。

この「フォレストパーク」あだたは、誰もが安心して気軽に訪ねられるフィールドです。さあ、歩いてみましょう。誰かの喜ぶ物、うさぎの糞発見！もちろん熊も住んでいます。看板にある引っかけ傷跡は、なわばり宣言でしょう。か。耳を澄ましてみて下さい。

今回は、思いがけず齋藤さんからの提案で「フォレストパークあだた」を散策しながらの素敵なイベントになりました。もりの案内人のガイドで自然とふれあい、展望台で抹茶をいただいたながらの眺めは最高で、久々に癒された早春の一日でした。
神山悦子

小鳥の音が聞こえますよ。この季節は姿もよく見えます。足元落ちてはいるおもしろい形のもの。は？「もりのエピソード」のリスが松ぼっくりをかじって残した芯の部分です。この辺一帯は、リスのレストランなので、リスが歩いて自然を観察したり、炭焼きを体験し、親熱でピザを焼いてみんなで食べた楽しいです。環境学習目的の子どもたちだけでなく、家族の介護の合間にリフレッシュに訪れる女性もいます。

「自然保護の先進国」
コスタリカ
三年前の二〇〇三年七月、宗形初枝さんから(前回のインタビュー者)と一緒に日本と同じ平和憲法を持つ国、エコリズムの先進国コスタリカに行きました。彼女のお誘いを受け「鳥の翼」に応募して、一〇月二日から一月二日までの二日間の日程でコスタリカを訪問しました。

コスタリカは、中南米にある人口約四〇〇万人の小さな国です。スペイン語で「豊かな海岸」という意味のとおり、貴重な動植物の宝庫で、国土面積の25%を保護区に指定されています。しかし、この国もかつては外国資本による大規模リゾート開発や放牧地造成による森林伐採で、環境破壊の深刻な事態を招いたことも、そこから豊か自然の保護と利用を考える「エコリズム」に転じ、「自然保護」の先進国になりました。

実際、オオガメの産卵エコツアーにも参加しましたが、案内役は専門のライセンスを持つ

も物を大事にすること、戦勝を基として残すという考えに基づいて、最初に訪問した国立博物館は、破壊が残る子ども博物館は元別荘物でした。もちろん内装はきれいにされていて、いすも自然に使われなくなった建物が、教育施設になっていました。子どもたちには、自分を大切にし、いのちを大切にすることを教えています。また、12歳になるとコスタリカ人である証明書が発行されるのをとても楽しみにしています。選挙権は18歳以上ですが、選挙も選挙も、行い、各政党の立候補者の四割を女性にすることが決められているなど、民主主義が徹底しています。

地域住民のガイドで、女性も活躍していました。

「いのち、教育が大切」の
国コスタリカ
コスタリカでは「教育は最大の投資」といわれるように、軍隊を持たないかわりに国家予算の24%を教育費に当てています。徹底して「対話」を重視した平和教育に力を入れている。人権意識を育んでい

日常生活の自分がおかれて方があるのか、「何をなすべきか」を問いつつ、平和を求め行動しているコスタリカから学んで得たものは多大でした。

日常の自分がおかれて方があるのか、「何をなすべきか」を問いつつ、平和を求め行動しているコスタリカから学んで得たものは多大でした。